

**近畿地方交通審議会
近畿船員部会議事録**

第185回

令和6年2月22日

日 時 令和6年2月22日（木） 16時00分から

場 所 近畿運輸局 会議室（船員部会室）

出席者 公益委員 横見部会長、定岡委員、三輪委員、安達委員

労働者委員 浦委員、佐藤委員、坂上委員（欠）

使用者委員 磯合委員、土屋委員、開委員（欠）

運 輸 局 大谷海事振興部長（欠）、村上海事振興部次長、
土本船員労政課長、岡田船員労政課専門官、
竹内船員労働環境・海技資格課長

議題1．管内の雇用等の状況について

議題2．その他

議 事 概 要

横見部会長：

それでは、ただ今から第185回近畿船員部会を開催いたします。

あらかじめお配りしております「第184回船員部会」の議事録につきまして、ご承認をお願いしたいと思っております。ご異議ございませんか。

(異議なし)

横見部会長：

無いようですので、ご承認をいただいたものとして取り扱わせていただきます。

それでは、議題1の「管内の雇用等の状況」について、運輸局からご説明をお願いいたします。

土本船員労政課長：

それでは「令和6年1月分管内雇用状況」につきまして、ご説明させていただきます。

1. 職業紹介状況

①求人関係

新規求人数は、78人（前月比+20人、34.5%の増、前年同月比-49人、38.6%の減）となっています。

月間有効求人数は、135人（前月比-73人、35.1%の減、前年同月比-66人、32.8%の減）となっています。

②求職関係

新規求職者数は、14人（前月比+4人、40.0%の増、前年同月比-1人、6.7%の減）となっています。

月間有効求職者数は、30人（前月比±0人、前年同月比－10人、25.0%の減）となっています。

③成立状況

当月の成立数は、3人（前月比±0人、前年同月比：－1人、25.0%の減）となっています。

④職員・部員別成立者内訳

職種別の内訳は、甲板部職員1人、機関部職員2人、甲板部部員0人、機関部部員0人、事務部部員0人となっています。

年齢別については、10歳代0人、20歳代0人、30歳代0人、40歳代2人、50歳代0人、60歳代1人、70歳代0人となっています。

2. 新規求人・求職者の取扱実績

①職種別内訳

新規求人の職種別内訳は、職員56人（甲板部38人、機関部18人、無線部0人、事務部0人）、部員22人（甲板部13人、機関部7人、無線部0人、事務部2人）となっています。

新規求職の職種別内訳は、職員7人（甲板部5人、機関部2人、無線部0人、事務部0人）、部員7人（甲板部3人、機関部1人、無線部0人、事務部3人）となっています。

②新規求職者の退職理由

内訳は、船舶所有者の都合が0人、定年退職0人、雇用期間満了1人、本人の申し出6人、自己の健康0人、倒産0人、就労中5人、不明2人となっています。

③新規求職者の年齢別

30歳未満3人、30歳代4人、40歳代3人、50歳代3人、60歳以上1人となっています。50歳以上は4人で占める割合は28.6%、30歳未満は3人で占める割合は21.4%です。

3. 失業等給付金支給状況

当月末の受給資格者数は13人で、基本手当の給付実人数は2人、給付件数は3件となっています。給付金額は602,790円です。前月は2人、2件の475,440円でした。

それから、高年齢求職者給付金が0件0円、再就職手当が0件0円、就業促進定着手当が0件0円によって、当月支給額計は、602,790円となります。

4. 月間有効求人倍率の推移

1月の近畿船員は4.5倍で、前月比-2.43ポイント、前年同月比、-0.53ポイントとなっています。

5. 近畿運輸局、月間有効求人・求職状況

①月間有効求人は135人で、このうち、新規求人者数は78人となっています。

当局の紹介による求人側の成立は0人、他局成立は2名でございました。求人の取り消しは28人で、理由の内訳は有効期限切れ28人、自己応募・縁故により採用0人、会社都合により取り下げ0人、その他は0人となっています。

②月間有効求職者は30人で、前月との差は±0人でした。

当局の紹介による求職側の成立は0人、他局成立は1人でした。求職の取り消しは8人で、理由の内訳は期限切れ6人、自己応募・縁故により採用1人、自己都合により取り下げ1人、その他0人となっています。

6. 全国運輸局別の有効求人、有効求職、成立数、有効求人倍率

①12月の全国の月間有効求人数は、3,224人で、前月比98.

6%、前年同月比は110.6%となり、310人増加しています。

- ② 1 2月の全国の月間有効求職数は、644人で、前月比91.6%、前年同月比82.1%となり、140人減少しています。
- ③ 1 2月の全国の成立数は、30人で、前月比73.2%、前年同月比では53.6%となり、26人減少しています。
- ④ 1 2月の全国船員の有効求人倍率は季節調整値により4.64倍となっています。1 2月の全国陸上は季節調整値により1.27倍となっています。

以上が管内の雇用等の状況でございます。

横見部会長：

ご説明ありがとうございます。

資料1、2、3について何かご質問等ございますでしょうか。

土屋委員：

1月の新規求人数や有効求人倍率が少なかったようですが、これは制度の変更など何か理由があるのでしょうか。

岡田船員労政課専門官：

制度的な変更はありませんが、最近では3ヶ月に一度、新規求人件数が増加する傾向にあります。これは、求人票の有効期間が満了後、その翌月に各社が求人票を再度提出するためでして、1月も新規求人件数が増加するとみていたのですが、思っていたほど提出されませんでした。そのため、月間有効求人数が前月より73人減少し、有効求人倍率についても前月に比べて-2.43ポイントとなりました。提出が少なかった理由について、何か特別な理由は今のところ見当たりません。

土屋委員：

ですと、今後は少し様子見というところでしょうか。中国の景気鈍化に伴って荷動きが少し鈍って、新規求人数が減少したのかなとも考えた次第です。

岡田船員労政課専門官：

そうですね。採用が進み、人手不足が解消されたということであれば良いのですが、はっきりした理由はわかっておりません。

土屋委員：

わかりました。ありがとうございます。

横見部会長：

他によろしいでしょうか。

それでは、次に議題２の「その他」に入ります。

運輸局の方から説明をお願いします。

村上海事振興部次長：

資料４を説明申し上げます。

まず、令和５年１２月分の内航海運の輸送動向調査の概要ですが、

貨物船と油送船を合計した輸送量は前年同月比１０２％となっております。

１２月は低気圧の発生から避難等による輸送障害があったものの貨物船、油送船とも増加となりました。

貨物船は燃料、自動車の輸送が底堅く２ヶ月連続で増加となっており、油送船は白油の輸送が大きく回復したため３ヶ月ぶりに増加となっています。

２０２３年の年間輸送量は前年比で貨物船は１００％、油送船は９７％となっています。

貨物船は鉄鋼など多くの品目で減少していますが、自動車の生産の回復が続き輸送が堅調に推移しているようです。雑貨は消費の落ち込みや中国経済の鈍化の煽りを受けているようです。

油送船は白油のみ増加で、他の品目は全て減少となっています。

黒油は原発の再稼働や再生エネルギーの稼働、白油はガソリン効率の高い自動車の普及、灯油は暖冬によるなどの減少要因があります。

ケミカル、特タン船は中国の増産による市況の悪化から国内のエチレンプラントの稼働率が低迷し、それらが反映される結果となったようです。

(貨物船の概要)

12月の貨物船の輸送量は、前年同月比103%、前月比102%となっています。

鉄鋼は、前年同月比で98%。時化に伴う輸送障害が影響したようです。

燃料は前年同月比130%。石炭の輸送が好調だったため燃料全体として増加になっています。

紙・パルプは前年同月比111%。紙製品等は減産により減少傾向にある反面、木材が増加したため全体を押し上げているようです。

雑貨は前年同月比99%。時化による輸送障害の影響は特になかったようですが、物価上昇による買い控えが輸送需要の減少の要因になっているようです。

自動車は前年同月比104%。依然として堅調な輸送が継続していますが、一部船社でメーカーの不正問題に伴う工場稼働停止により、12月下旬から輸送する自動車が無く減少が見られました。

セメントは前年同月比97%。セメント需要自体は低調のままのようです。

(油送船の概要)

12月の油送船輸送量は前年同月比102%、前月比で113%となっています。

黒油は前年同月比93%、冬期の需要期に入り電力向けのC重油の輸送が増加しているものの暖冬により前年同月比では減少となっています。

白油は、前年同月比108%、冬期休暇の繁忙期に入りジェット燃料油の場需要が高まったほか、製油所間の転送需要による増加があったようです。

ケミカルは前年同月比89%、ケミカル市況を取り巻く環境は好転せず低調に推移しているようです。

それでは4ページ以降、貨物ごとの状況です。12月の欄と対前月の欄をご覧ください。

鉄鋼ですが、前年同月比で 98.2%、前月比では 105.4%
原料は、前年同月比で 99.8%、前月比では 104.3%
燃料は、前年同月比で 130.3%、前月比では 119.2%
紙・パルプは、前年同月比で 110.8%、前月比では 112.4%
雑貨は、前年同月比で 98.6%、前月比では 97.6%
自動車は、前年同月比で 104.0%、前月比では 92.0%
セメントは、前年同月比で 97.1%、前月比では 107.6%
貨物船全体の輸送量は、1,765万6千トンで
前年同月比で 102.6%、前月比では 102.4%となっています。

黒油（こくゆ）は、前年同月比で 93.2%、前月比では 121.3%
白油（はくゆ）は、前年同月比で 108.0%、前月比では 111.9%
ケミカルは、前年同月比で 88.8%、前月比では 97.0%
一般タンカーの輸送量は、822万6千トンで
前年同月比で 101.9%、前月比では 113.0%となっています。

続きまして、

高压液化は、前年同月比で 100.0%、前月比では 116.0%
高温液体は、前年同月比で 81.6%、前月比では 95.9%
耐腐食は、前年同月比で 100.0%、前月比では 102.3%
特タン船の輸送量は、106万5千トンで
前年同月比で 98.5%、前月比では 109.0%となっており、
全てのタンカーの合計は、929万1千トンで
前年同月比で 101.5%、前月比では 112.5%となっています。

次に資料5、長距離フェリーの令和5年12月の輸送実績でございます。

12月の欄と、右のほうの対前月、対前年同月比のところをご覧ください。

まずトラックですが、

北海道は、11,722台で、前月比 96.4%、前年同月比で 99.8%
北九州は、34,439台で、前月比 100.5%、前年同月比で 101.1%

中九州は、 9,663 台で、前月比 87.0%、前年同月比で102.0%
南九州は、13,392 台で、前月比109.4%、前年同月比で107.1%
となっています。

次のページ、旅客でございます。

北海道は、 5,562 人で、前月比 90.1%、前年同月比で116.0%
北九州は、73,973 人で、前月比 88.9%、前年同月比で101.2%
中九州は、26,143 人で、前月比 72.6%、前年同月比で107.3%
南九州は、25,418 人で、前月比 90.8%、前年同月比で106.7%
となっています。

次のページ、乗用車でございます。

北海道は、 2,089 台で、前月比 95.4%、前年同月比で119.2%
北九州は、23,449 台で、前月比 92.8%、前年同月比で100.6%
中九州は、 4,136 台で、前月比 78.3%、前年同月比で 98.9%
南九州は、 7,337 台で、前月比 91.8%、前年同月比で 96.7%
となっています。

12月分のトラックの実績については、全ての航路で対前年同月とは同じような実績で、特筆するような理由はありませんが、年末の駆け込み需要、物価上昇による消費の落ち込み等さまざまな要因が重なった結果と推測しています。

旅客、乗用車の実績についても、対前年比と大きな変動は無く、12月中旬から下順にかけての大雪やガソリンの高騰など複合要因があったものと思われる。

説明は以上になります。

横見部会長：

ありがとうございました。

それでは、資料4、5について何かご質問等ございますでしょうか。

横見部会長：

無いようですので、運輸局からその他の報告事項をお願いします。

村上海事振興部次長：

前回の船員部会で浦委員から「海技教育機構の予算に関して、前年度の補正予算はいくらだったんですか。この資料を見ると、まるで去年よりも予算がついているみたいに見える」と質問がありました。

上の表題で5年度補正予算・6年度当初予算が前回お配りした資料で2枚目が前年度の予算総括表になります。前回お配りした令和6年度の海事教育機構経費ですが、6年度予算額が65億1千万、5年度補正予算が7億9百万で計72億18百万になり、5年度の予算と比較すると1.1倍と記載されています。

2枚目をご覧ください。5年度予算額と4年度補正額を合わせた額は72億9千万になり、5年度と6年度を比較すると72百万減額したことになります。海事局においては、6年度の補正予算確保に向けて強く要求を続けていくものと認識しています。

また、佐藤委員からご質問がありました「物流2024年問題にかかる海運シャーシの導入経費を支援について、新車のシャーシを買うということに対しての支援であれば良いのですが、支援の考え方を示していただきたい」という件ですが、物流部門の担当に確認したところ、支援内容については、まさにこれから支援要綱を作成し、どのような場合に支援していくのかということになりますが、「物流総合効率化法に基づくモーダルシフトの認定を受けた事業について、海運シャーシ等の導入経費を支援することを前提としており、「2以上の者の連携」による流通業務の省力化及び物資の流通に伴う環境負荷の低減を図るための物流効率化の取組を支援していく計画なので、老朽化しているシャーシのリプレースではないとのことでした。

前回私から説明した横開きの海運シャーシについては、大阪と沖縄を運航する内航事業者さんからヒアリングした際に、通常外航コンテナは後ろの扉しか開きませんが、背後地が狭い場所や港頭地区の上屋でのバン詰め作業に

は横開きが便利であり、今後普及していくであろうとの話がありましたので、補足とさせていただきます。

説明は以上です。

横見部会長：

ありがとうございました。

ただいまの説明につきまして、ご質問等はございますでしょうか。

横見部会長：

よろしいでしょうか。

それでは続きまして、船員政策や船員労働全般に関わる様々な問題につきまして、ご意見情報等ございましたらご発言をいただきたいと思います。

労働者委員の方からいかがでしょう。

横見部会長：

よろしいでしょうか。

では、使用者委員の方からいかがでしょう。

横見部会長：

そのほか、公益委員の方からいかがでしょう。

横見部会長：

最後に、事務局から何かにございますでしょうか。

村上海事振興部次長：

漁業最低賃金専門部会についての報告がございます。

昨年の船員部会におきまして、労働者委員から「現在、全日本海員組合はオブザーバーという形で漁業最低賃金専門部会に出席していますが、正式な労働者委員として指名していただけないか」という旨のご意見があり、この場で議論していただいたところでした。その後、全日本海員組合さんのご意見

については、現地の労働者委員にお伝えさせていただくこととなっております。

去る2月2日、今年度の漁業最低賃金専門部会の使用者委員、労働者委員各1名と面談してまいりました。全日本海員組合さんのご意見をお伝えしましたところ、労働者委員2名のうち1名を全日本海員組合さんから出席いただくことについて了解を頂きましたので、ご報告させていただきます。

横見部会長：

この件について、何かご意見・ご質問等ございますでしょうか。

浦委員：

村上次長、どうもありがとうございます。

村上海事振興部次長：

全日本海員組合さんのご意見につきまして、現地で直接お話ししましたところ、意外に反対する意見もないんだというご返事でした。現在はオブザーバーですので旅費が支給されないにもかかわらず、労働組合としてもしっかりと立ち会いたいということで参加いただいていることをご説明しました。

横見部会長：

では、来年度に最低賃金の改正について諮問があれば、全日本海員組合さんから正式な労働者委員として1名出席いただけるということですね。

村上海事振興部次長：

そうなります。現地の漁業船員の代表者1名と全日本海員組合さんの1名を部会長からご指名いただけるよう準備いたします。

横見部会長：

今年度、漁業最低賃金専門部会に出席された定岡委員、いかがでしょうか。

定岡委員：

公益側の立場からしましても、以前より労使間でより良い議論ができるようになるのではないかと思います。

横見部会長：

漁業最低賃金専門部会に出席したことがないとわかりづらい部分もありますが、労使間の力関係に差があつてなかなか思ったことを言えなかったり、最低賃金を上げる代わりに船主経費の取り分比率を上げて、船員さんの歩合給を下げるというような発言があつたりしまして、これは何とかしなければならぬと思っていたところです。今回、私としては、定岡委員も同じですが、良い形に落ち着いてよかつたなどと思っています。問題提起いただいた全日本海員組合さん、現地に赴いて説明いただいた事務局の皆さんに御礼申し上げます。

横見部会長：

それでは、この件も含めまして、ほか何かございますでしょうか。

横見部会長：

よろしいでしょうか。

それでは本日の部会は終了いたします。

次回は3月21日（木）16時00分からとなっておりますので、皆様よろしくお願いいたします。

（配付資料）

資料1．令和6年1月分 近畿運輸局管内船員職業紹介実績表

資料2．令和6年1月分 月間有効求人・求職状況（近畿管内）

資料3．令和5年12月分 局別月間有効求人数（商漁船・職部員別）等

資料4．内航輸送実績状況（令和5年12月分まで）

資料5．長距離フェリー輸送実績の推移（令和5年12月まで）